

長引く咳で眠れない、 目が覚めるなら呼吸器内科へ 治療は途中でやめないで

ドクターズコンテンツシリーズ #56

はじめに

「咳くらいなら病気じゃない、受診するほどではない」と考えていませんか？

たしかに咳は私たちにとってごく身近な症状ですが、咳が長引くと夜中に激しく咳こむせいでぐっすり眠れなくなり、日中の活動にだるさを引きずるなど、日常生活に支障が出てしまうこともあります。咳の原因となる病気は実に多種多様です。咳が出る病気を治療するにはどの診療科を受診すればいいのか、また咳をなるべく早く治すにはどんなことに気をつければいいのかなど、長引く咳の対処法を紹介します。

受診したほうが良いのはどんな咳？

咳は体内から不要なものを排出しようとする働きなので無理に止めないほうがいいのですが放置すると体力を消耗してしまったり、肋骨の骨折などにつながったりすることもあります。また、長引く咳には肺がんなどの重大な病気が潜んでいることもあります。

咳がスタートしてから1〜2週間程度であっても、「夜間に激しく咳き込んでしまってなかなか寝付けない」「咳が出てしまうので途中で目が覚めて熟睡できない」といったように日常生活に支障が出ているのであれば、早めに医療機関に相談することをおすすめします。

長引く咳は呼吸器内科へ

長引く咳の場合は咳の原因が喉や鼻にあるとは限らないので、必ずしも耳鼻科での治療が最適わけではありません。長引く咳原因となる病気として肺がんなど進行すれば命に関わる重篤なものも考えられ、それらを発見するには胸部レントゲンの撮影などが必要です。

長引く咳の場合は呼吸器内科を受診するほうが的確な検査、診断、治療への近道と言えるでしょう。

💡 治療期間の目安

長引く咳の治療期間は、2〜3ヶ月程度が目安ですが、実際は「咳がおさまったから」と言って途中で通院をやめてしまう患者さんが多いです。

しかし、治療期間が短いと、咳が出なくなってもまだ気管支などの炎症が完全にはおさまっていません。風邪やインフルエンザにかかるなど何かの引き金があると、また咳の症状がぶり返してしまいます。

一定の期間だけ集中的に通院すれば、慢性的に咳に困ることはありません。長引く咳の治療は医師の指示があるまでやめないようにしましょう。



Doctor

村田クリニック

むかいだ たかひろ
向田 尊洋 先生



咳といっても原因はさまざま

咳は誰にでも起こりうる身近な症状の一つですが、必ずしも軽い疾患の症状とは限りません。長引く咳の原因となる主な病気は以下の通りです。

- ・ 咳喘息
- ・ アトピー咳嗽
- ・ 副鼻腔気管支症候群 (SBS)
- ・ マイコプラズマ肺炎
- ・ 百日咳
- ・ 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)
- ・ 肺がん
- ・ 逆流性食道炎



長引く咳の代表格「咳喘息」とは？

長引く咳の背景にはさまざまな病気が潜っていますが、長引く咳を訴えて受診される方の約8割は咳喘息です。発症するのは風邪やインフルエンザと同じタイミングが多く、夜間〜早朝に痰のからまない咳が出ることが2〜3週間以上続くようであれば、咳喘息の可能性が高いと言えます。

市販の風邪薬や咳止めが効かない？

咳喘息で受診される方の中には「市販の風邪薬や咳止めを飲んでみたけれど効かない」とおっしゃる方が少なくありません。

咳喘息は「気管支が細くなる」「外部からの刺激(主にアレルギー)に敏感になる」「気管支に炎症が起きる」という3つの現象をすべて解決しないといけません。

しかし風邪薬や咳止めはアレルギーを緩和するものではありませんし、気管支を広げたり炎症を改善したりする効果も基本的にありません。だから風邪薬や咳止めを飲んでも咳がおさまらないことが多いのです。

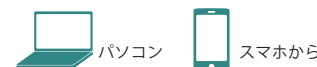


この他にも...

ドクターからの健康アドバイス「ドクターズコンテンツ」
サイトでは様々な症例をご紹介します。

- 咳の治療方法
- 長引く咳を繰り返さないために
など掲載中!

📄 アイチケット広場



<https://park.paa.jp/>